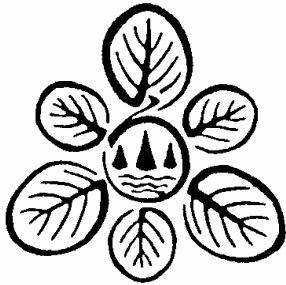


「校章について」



万葉の歌人 大伴家持は、五年の任を終えて都へ
 帰るとき“石瀬野に秋萩凌ぎ馬並めて初鷹狩
 だにせずや別れむ”（巻19. 4249）と思い出を惜別の
 情で詠んでいる。

石瀬野は、現在の石瀬あたりと言われている。家
 持はこの地をこよなく愛し、毎年、秋萩の咲く頃、友達と馬をつらねて鷹狩りに
 出かけたのであろう。

校章には、中央に石瀬野の地をとり囲む雄大な立山と射水川（現在の
 庄川）がデザインされている。それらを「ら」の字で囲み、周りに「の」
 の字を形取った6枚の萩の葉を配し、「のむら」を表している。

校歌

作詞・作曲 野村豊繁

一 千歳の昔 鷹狩りし

歌に残れる 石瀬野の
 わが学び舎に ますぶ友
 かがやく希望 胸に秘め
 仰ぐ立山 空青し

二 あしつき採りし 乙女らの
 瀬に立つ姿 眼にえがく
 その名もゆかし 射水川
 清き流れに 浴える郷
 学ぶわれらも かくあらむ

三 遠き祖先の 拓きたる
 永久に消えざる その勲
 ゆたかに和む みのる郷
 受けつぐ責や また重し
 いざ起て われらもろともに